

2 学校評価システムの確立に向けたポイント

ポイント（１）学校評価委員会の設置

学校評価の推進や改善のために、学校評価委員会の果たす役割を明らかにする。

学校全体で評価に取り組むためには、企画、調整、実施の役割を担う中心的な組織が必要になります。本県でも、このような役割を担う組織として、学校評価委員会を設置する学校が増えています。ただし、新たな組織を設置しないで、既存の学校運営委員会や教務部などが担当している例もあります。いずれの場合でも、一人一人の教職員が担当する教科や校務分掌などと、学校評価を担当する組織との関連を明らかにすることが大切です。

組織の在り方は各学校によって異なりますが、学校評価委員会が担う主な役割は、次の三つの段階にまとめることができると考えられます。

Step1 評価の計画

- ・ 先行事例や資料を提供して、教職員の共通理解を促す。
- ・ 管理職や学校運営委員会（企画委員会）などの組織と連携しながら、学校経営のビジョンや重点目標に対応する評価項目を設定する。
- ・ 評価結果を予想し、評価の判断基準を明らかにする。
- ・ 教職員、生徒、保護者などによる評価を適切な時期に設定した年間計画を立案する。

Step2 評価のスケジュール管理・結果の集計

- ・ 年間計画に基づいて、学校評価を円滑に実施する。
- ・ 評価結果の集計をすみやかに行う。

Step3 評価結果の考察及び改善策のまとめ・公表

- ・ 各校務分掌が行った考察や改善策をまとめる。
- ・ 公表の時期・方法を検討して、重点目標の達成度を明らかにする。

➡ 【ポイント(1)の事例】

ポイント(1)で示した役割のすべてを学校評価委員会が担うわけではありません。学校経営のビジョンの具体化や評価項目の設定については、管理職や学校運営委員会との調整が、また、評価の実施や評価結果に基づく改善策の作成などについては、各校務分掌、学科、学年、教科などとの調整が重要になります。このようなことから、学校評価委員会には、機動的かつ柔軟で、調整力に富んだ組織運営が求められます。

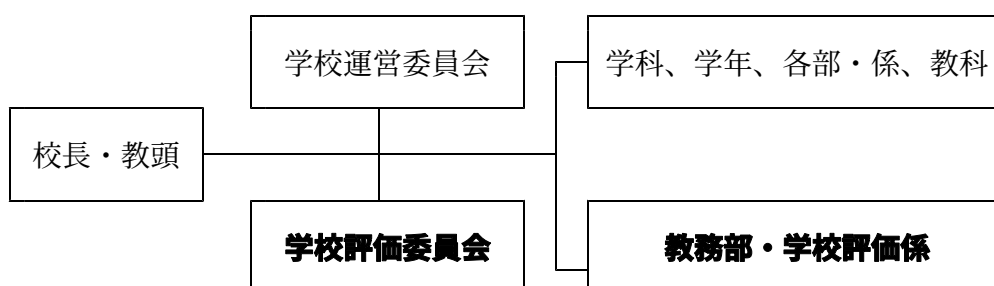
次の二つの学校の事例では、学校評価の役割を明確にして、学校評価委員会本体とは別の少人数の担当者からなる組織を生かそうとしています。大きな学校評価委員会の組織ですべての事項を担当するよりも、効率的な運営ができると考えられます。

〔事例(1)－1〕学校評価の推進・運営の役割を委員会と部・係で分担している。

- 初年度は、年度途中に学校評価の準備・検討を行う委員会を設置して、試行的に実施するための評価票の原案を作成した。
- 二年目から学校評価委員会を設置して本格的に取り組んでいる。
- 評価結果の集計・まとめを行う学校評価係を教務部に設置し、すみやかに評価結果を資料として示すことができるようにしている。

■ 現在の組織図

- ・ **Step1（評価の計画）**の機能は、「学校評価委員会」が担う。
- ・ **Step2（評価のスケジュール管理・結果の集計）**の機能は、「学校評価係」が担う。
- ・ **Step3（評価結果の考察及び改善策のまとめ・公表）**の機能は、「学校評価委員会」が担う。



※ 集計処理にはカードリーダーを利用して省力化を図っている。

〔事例(1)－2〕学校評価の推進・運営の役割を委員会の中で分担している。

- 初年度は、教頭を中心に教職員による自己評価票の原案作成に取り組んだ。
- 二年目からは学校評価委員会を設置した。
- 学校評価委員会が評価結果の公表や改善の方策まで検討する機能を持つ大きな組織であるため、内部に評価票の原案を検討する小委員会を設置して、評価票の改善に取り組んでいる。
- 学校評価委員会や小委員会の担当には、中堅や若手の教員からも選び、創意工夫が生かせるような組織になるよう配慮している。

■ 現在の組織図

- ・ **Step1（評価の計画）、Step2（評価のスケジュール管理・結果の集計）、Step3（評価結果の考察及び改善策のまとめ・公表）**の全体を「学校評価委員会」が担っている。
- ・ 学校評価委員会の内部に評価票作成のための小委員会を設置している。

